

離島と本土の連携を生かした 地域ICTクラブの自走化・活性化モデルについて

鹿児島県地域ICTクラブ推進協議会
(代表団体 ライフイズテック 株式会社)

◆基本情報

- ✓ 協議会名称：鹿児島県地域ICTクラブ推進協議会
- ✓ 代表団体：ライフイズテック（株）
- ✓ 構成員：徳之島町、霧島市、（株）CA Tech Kids
- ✓ 実施地域：徳之島町、霧島市

◆実績数値

クラブ設置総数	2ヶ所	講座実施総数	8回※
----------------	-----	---------------	-----

構成員種別	主な属性	人数
児童生徒等	小学3年生～中学3年生	43名
メンター	社会人、大学生、高専生	10名
サポーター	社会人（地域おこし協力隊、メディアセンター職員等）	4名

離島と本土の連携を生かした地域ICTクラブの
自走化・活性化モデルを検証する

◆徳之島町

- ✓ サポーターは、29年度実証事業でも実績のあった徳之島町役場の職員、地域おこし協力隊の方から確保。
- ✓ 参加児童は、町内の小中学校にチラシ配布。

◆霧島市

- ✓ サポーターは、クラブ活動の拠点となる霧島市メディアセンターの職員から確保。
- ✓ 参加児童は、小学生向け講座は市立宮内小学校の児童、中学生向けは、霧島市広報紙に掲載し募集。

◆徳之島町

✓ メンター確保

- 29年度総務省事業でメンター養成研修を受けた者、町主催のWebライティング講座受講者等、ITリテラシーが高く、地域活動に関心のある方に声かけ。

✓ メンター育成

- 小・中学生を対象に、Webサイト制作の基礎からオリジナル作品開発までを指導できるレベルを目指す。
- 2日間の集中講座で、コミュニケーションスキルから教材を使った指導法、外部エディタを使ったWebサイト制作スキルを身につける。研修の事前、事後に自習を行なった。
- 講師は、ライフイズテック（株）が担当。

◆霧島市

✓メンター確保

- 市内にある鹿児島高等工業専門学校の生徒に声かけ。
また、霧島市メディアセンターの職員、ライフイズテック（株）の九州在住のメンターからの紹介者から確保。

✓メンター育成

- 小学生講座、中学生講座それぞれを指導できるレベルを目指す。
- 2日間で、コミュニケーションスキルから教材を使った指導法、外部エディタを使ったWebサイト制作スキルを身につける。
- 先行して実施した徳之島町の方がオンラインで参加し、メンターとして、司会として、サポーターとして、の知見を共有。
- 講師は、小学生部分を（株）CA Tech Kidsが、中学生部分をライフイズテック（株）が担当。

メンター研修の様子

先行して実施した徳之島町の方が霧島市での研修にオンラインで参加
メンターとして、司会として、サポーターとして、の知見を共有



徳之島と霧島のメンター

徳之島町



霧島市



実施実績（講座内容）

	徳之島町 (小・中学生)	霧島市 (小学生)	霧島市 (中学生)
目標	HTML/CSSの基礎を学び、オリジナルのWebサイトを制作する	プログラミングの基礎を学び、オリジナルのゲームを開発する	HTML/CSSの基礎を学び、オリジナルのWebサイトを制作する
テーマ	プログラミングで「徳之島らしさ」を表現する	楽しみながらプログラミングの概念を学び、ゲームを作成する	基礎から学び、オリジナルのWebサイトを作成する
実施内容	<ul style="list-style-type: none">・ゲーム感覚でHTML/CSSを学べるオンライン教材でWebサイト作りの基礎を学習。・「徳之島らしさ」を紹介するオリジナルのWebサイトを制作し町の方に発表する。	<ul style="list-style-type: none">・前半はQUREOを使いプログラミングの基礎概念を学習。・後半は学んだ知識を使いオリジナルゲーム開発、チーム内で作品を発表する。	<ul style="list-style-type: none">・ゲーム感覚でHTML/CSSを学べるオンライン教材でWebサイト作りの基礎を学習。・オリジナルのWebサイトを制作し発表する。
使用教材	MOZER	QUREO	MOZER

次年度以降の計画

◆徳之島町での取組の自走化

- ✓ 地域ICTクラブとは異なるが、今回の実証事業の成果を生かし、徳之島町主催でプログラミング講座を既に実施。
- ✓ ひきこもりの方など、社会への適応に困難を抱えている社会人を対象。
- ✓ 本実証事業でメンター兼サポーターとして研修を受けた者が、自ら講座を運営、指導。
- ✓ 「MOZER」を活用し、HTML/CSSを使ったWebサイト作成。
- ✓ 対象者の方々が外に出るきっかけ、「自分でもできる」という自信を持つきっかけになっている。

→プログラミング教育が、**inclusiveな社会づくり**に寄与

→地域で講座の**自走化**ができています

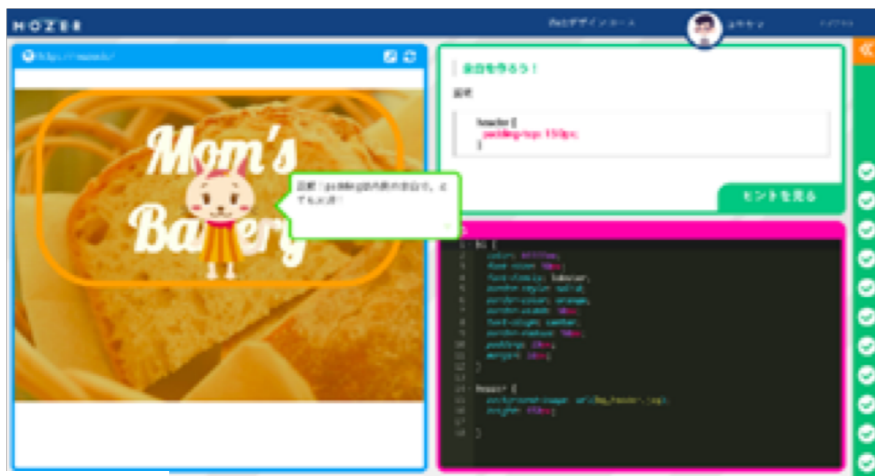
◆霧島市での取組の自走化

- ✓ メンター研修や講座開催時に、地域の学校の先生がオブザーブ参加。
- ✓ 学校で継続的な講座実施ができるように学校も積極的に取り組みに参加。
- ✓ 今年度のうちに学校の機材・ソフトウェアも教材を使用できる状態にしておくことで、来年度以降、自主的な取り組みが起きる基礎を作っている。

→教委直営の霧島市メディアセンターだけでなく、
地域の学校でも課外のICTクラブを実現できるようにしている

なぜ自走化ができているか

- ◆ **自学自習が可能な教材（画面上のメンターがいる教材）**
 - 地域人材が長期の研修無しに一定レベルを教えられる
 - 質問数が減るので、メンターの対生徒比率を下げた運営できる。
- ◆ **ブラウザベースのソフトウェアを使用する強み**
 - 今あるパソコン、インターネット環境で簡単かつすぐ始められる。
 - 機材などは特にないため、導入コストや保管コストが低い。
- ◆ **高いスキルレベルに至るメンター研修の安定化**
 - ITスキル・ファシリテーションスキルともにメンター育成研修のプログラムやフォローが安定化。
 - 結果として、講座でも想定以上のオリジナルwebページが出来上がった。



MOZER



QUREO

◆ 地域に存在する機材・ネットワークのセキュリティの問題

- 学校など公共施設のPCのブラウザがInternet Explorerに限定されてしまう。
- 利用するソフトのインストールができない、あるいはすぐ消えてしまう。
- PCスペック、ネットワーク環境が十分でも使えないと、宝の持ち腐れ状態。

◆ メンター募集にあたっての大学・高専等との連携

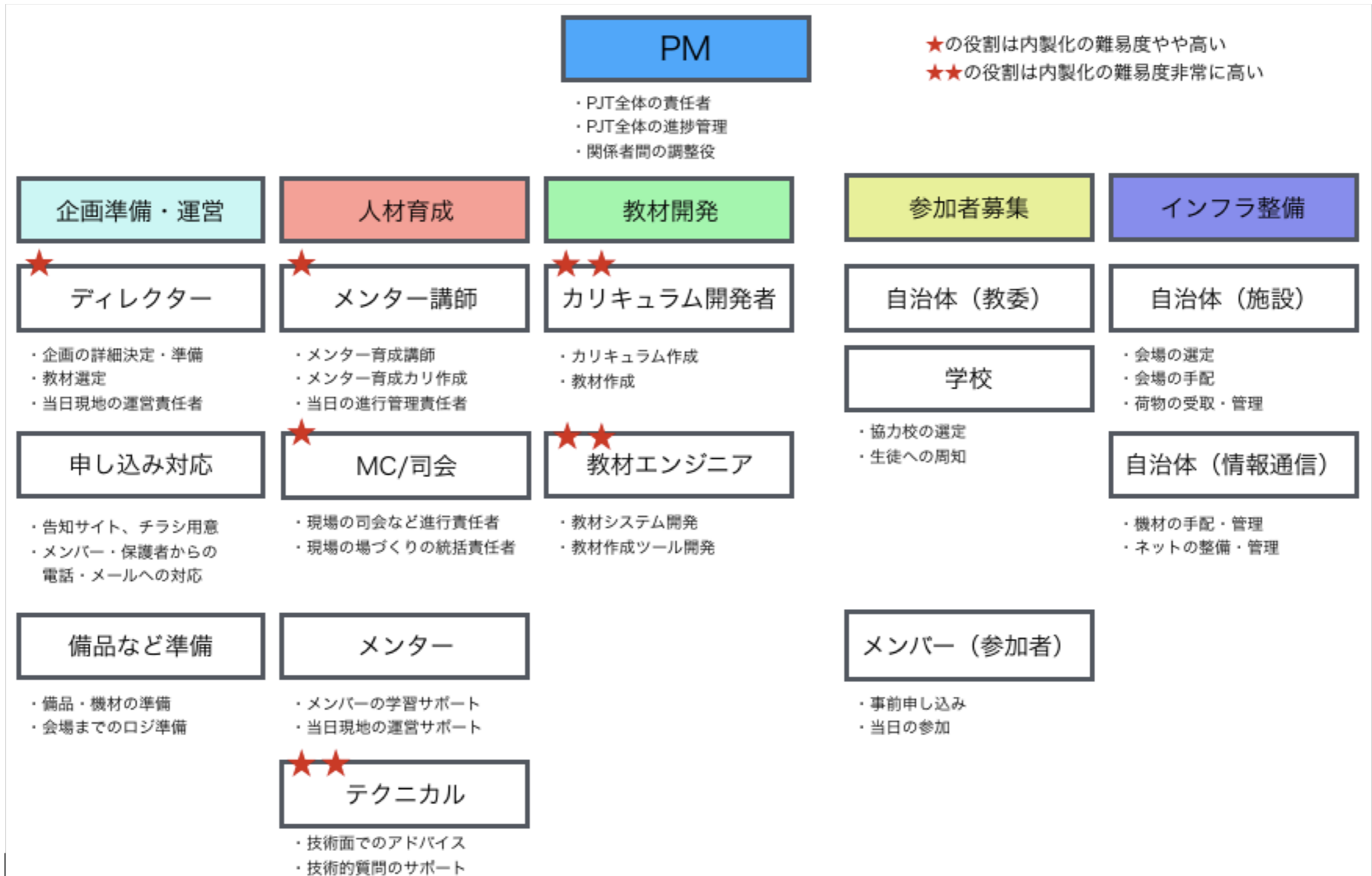
- 今回の取り組みでやや課題があった。
高専・大学の中でも地域連携を主務とする部署等と連携しないと告知さえすればメンター候補生が集まるというわけでは必ずしもない。

◆ Hidden Role（隠された役割）の稼働コストの大きさ

- 講座開催にあたって、表面的に見えやすいメンター講師・メンターだけでなく、施策全体を見るPM(プロジェクトマネジャー)、準備を司るディレクター、備品等の準備役、メンターと別に必要な司会役など、隠された役割が多く存在。
- それぞれの役割を地域で誰が継続的に担うのか検討が必要。
- 特に、施策を継続実施する意志・推進力を持つ地域のPMの存在が重要。
(今回の取組では、徳之島町・霧島市の地域関係者が自立的に担って頂いた)

自走化に向けた示唆

地域での講座運営の自走化に向けて多様な役割とそれに伴う人員配置が必要であることが改めて明らかになった。



◆今年度の総括

- ✓ MOZER・QUREOにより現地のメンターで講座が継続開催できている。
- ✓ 自立化しやすい教材・メンター研修の安定化などで横展開できる状況。
- ✓ 地域間のサポーターが情報共有することで取り組みレベルを高めている。

◆今後の課題

- ✓ 今年度実証で得たナレッジをマニュアル化し、地域で継続的にメンター育成・講座運営ができるような下地とすることが必要。
- ✓ 今後の課題としては、各地域のプロジェクトのプロジェクトマネジャー（PM）と講座のサポーター人材についても専門的な教育機会を設けることが必要。
- ✓ 地域に存在する機材・ネットワークのセキュリティの問題については各地域単体ではなく、総務省として国全体に対して指針を出すべき。講座実施に足る環境が、宝の持ち腐れ状態になっていることは問題。